

特集 : CX-9

8

## CX-9のデザイン Design of CX-9

鈴木 英樹\*1

Hideki Suzuki

### 要 約

MazdaデザインのDNAであるダイナミックかつエモーショナルなスタイリングと3列シートの優れたパッケージを融合した “ Prestigious & Emotional Crossover SUV ” が今回紹介するCX-9である。北米戦略車種として、2列シートのCX-7に続き3列シートのミディアムクロスオーバーSUVセグメントに投入するニューモデルである。従来の3列シートを持つクルマたち（ミニバン、コンベンショナルSUV、など）にはない新たな価値を提供するとともに、北米市場におけるMazda商品群のトップエンドモデルとしてのクオリティの高さとZoom-Zoomを発信し、Mazdaブランドの更なる成長を図るモデルの実現を目指してデザイン開発に取り組んだ。

### Summary

We introduce CX-9 here, “ Prestigious & Emotional Crossover SUV ”, a fusion of dynamic and emotional styling based on Mazda Design DNA and excellent 3rd-row seat package. This new model targeted at North American market is to be released into the segment of medium cross-over SUV with the 3rd-row seat, following on the 2nd-row seat CX-7. We took a progressive approach to design development, not only for providing a new value which the current 3rd-row seat cars ( such as Minivan and Conventional SUV ) do not have, but also for showing the Zoom-Zoom and its high quality as a top-end model among the Mazda products in the North American market. All these efforts have realized a model for further growth of Mazda brand.

## 1. はじめに

私は2000年の夏までの4年間、Mazda North American Operations (以下MNAO) のIrvineデザインスタジオに赴任しデザイン開発に参画した。この4年間の業務と現地での生活体験がCX-9デザイン開発の助けになった。当時のファミリーカーはミニバンが全盛で、私も日常生活には欠かせぬ車としてMPVを日常の足に週末のロングドライブに活用した。ファミリーの足としては最適な道具だった。ところが2000年以降ミニバンが急速に減少し始め、現在では路上やショッピングモールのパーキングでミニバンを見ることが少なくなった。3列シートを持つSUVやクロスオーバーSUVが取って代わったのである。CX-9開発当初の市場調査でもミニバンはサッカーママのクルマとかハウスワ

イフ・カーと表現され、旧来のSUVは無骨で洗練さに欠ける車種になっていることが調査結果から判明した。彼らのライフスタイルを演出する魅力が求められていることも判明した。ファミリーのための魅力的な価値を提供し、新時代の、新しいピープルムーバの創造がCX-9デザイン開発のミッションといえた。更に、早期に市場導入するべく、従来にない短期開発で商品化を実現するタスクを帯び、MNAOチームも参画したプログラムチーム一丸になった開発体制でデザイン開発を進めた。

## 2. デザインコンセプト

### 2.1 デザインコンセプト

我々はCX-9のデザインコンセプトを “ Prestigious and Emotional Crossover SUV ” とした。

\*1 プロダクションデザインスタジオ  
Production Design Studio

開発当初、北米カスタマーのライフスタイル等カスタマー調査を行い、チームで綿密なコンセプトを構築した。

日常の子供の送り迎えやショッピング、ホリデーのファミリードライブやアウトドアレジャー、週末の夫婦だけの演劇鑑賞や友達夫婦とのディナーなど、カスタマーの多様なカーライフをサポートし、それぞれのシーンで使用する喜びと所有する誇りを提供したいと考えた。アクティブな使用シーンにふさわしいスポーティイメージとフォーマルな使用シーンに映えるプレステージ性を兼ね備えたクルマ、そんな多様化したライフシーンをセンスよく演出したいと願うカスタマーの期待に応えるデザインを目指した (Fig.1)。



Fig.1 Image CG

## 2.2 コンセプトの3本柱

デザインコンセプト実現のため、我々は以下の3本柱を設定しデザイン開発に取り組んだ。

- (1) Mazdaらしい7シータクロスオーバーSUVとしてのエモーショナルスポーティ表現
- (2) 北米市場におけるMazdaのトップエンドモデルにふさわしいプレステージ性の表現
- (3) 存在感をアピールするユニーク性と新しさの表現

これらの3点を実現し、わくわくする期待感と想像以上の機能性をカスタマーに提供することをCX-9のデザインの目標とした。Mazdaが初めて投入する3列SUVセグメントでカスタマーの目を引き付ける登場感と多種多様なクルマたちが混在するフリーウェイの上やパーキングなどで見た瞬間にMazda車であることが識別できるデザインでなければならないと考えた。

## 3. エクステリアデザイン

### 3.1 エクステリアデザインテーマ

エクステリアのデザインテーマは“Prestige and Exotic Emotion”である (Fig.2)。

このクラスにカスタマーが求める期待を超えるデザインの実現にはどのようなシーンでもかもし出す上質なイメージと品質の高いデザインが重要なポイントと考えた。同時に、静止状態でも息づく動感を感じる躍動感あるプロポーションとフォルム、安定感あるスタンス等、MazdaデザインDNAを継承し、更にCX-9独自の個性的なキャラクターづくりを追求した (Fig.3, 4)。



Fig.2 Exterior Theme Sketch



Fig.3 Front Quarter View



Fig.4 Rear Quarter View

### 3.2 パッケージとプロポーションのベストバランス

プロポーションはデザインコンセプトを具現化する最も重要な基本フレームである。CX-9では全体のシルエット、キャビンとボデーのバランス、基本のキャラクタライン、タイヤのサイズ等、を美しいバランスで調和させ、遠目で見ても識別できる骨格を与えることに注力した。競合他車に対して室内長の長い3列シートのパッケージングを活かし、フロントからリヤにかけてスムーズに流れるシルエットを作ることで伸びやかでエレガントなCX-9独自のプロポーションが構築できた。特に上級グレードには20インチタイヤを採用し、CX-9の持ち味であるダイナミックでスポーティな印象を強調した。

リヤドアでキックアップするベルトラインはCX-7との共通性を見せるデザイン要素であり、張り出したリヤフェンダのキャラクタラインと調和し、安定感のある堂々としたたたずまいを実現した (Fig.5)。



Fig.5 Side View

### 3.3 フロントフェイスデザイン

“Proud Family Face” をフロントデザインのテーマとし、カスタマーが所有する喜びや誇りを持てる presteege性の高いデザインを目指した。

基本構成を立体的な彫りの深いスポーティな5ポイントグリルとワイドで厚みのあるバンパの構成で自信ある表情づくりを行った。また、モールディングの最適な量も吟味しながらデザイン開発を進めた。ヘッドランプ、フォグラブ、グリルバーとバンパインテーク内のバーにクロメ

ッキを採用し、トップエンドモデルに相応しい上質感を表現した (Fig.6)。



Fig.6 Front Face

### 3.4 エクステリアディテールデザイン

ディテールデザインはクルマ全体の中できらりと光るアクセントを与え、アイキャッチとなるデザインを意図した。ランプ類は台形や平行四辺形をモチーフに外郭形状と調和した立体構成を行い、クロームメッキの仕上げで上質な印象を強調するとともに、モチーフを重ねるデザイン処理を行い立体感と動きを表現した。台形デザインを採用したエキゾーストガーニッシュはリヤデザインにアクセントを与え、遠目で見てもCX-9とわかる個性化を狙ったものである。20インチアルミホイールにはハイライトを際立って見せる高輝度シルバーカラーを採用した (Fig.7)。



Fig.7 Exterior Details

## 4. インテリアデザイン

### 4.1 インテリアデザインテーマ

インテリアデザインのテーマは “Proudly and Attractive Space” とした。

ドアを開けた瞬間に見るものを引きつける魅力と運転する楽しみを予感させるコックピットまわりのデザインに加え、ドライバシートに座ると心地良く包み込まれた安心感とゆとりを感じるインテリア空間を目指した。

#### 4.2 インstrumentパネルデザイン

InstrumentパネルはMazdaインテリアデザインDNAであるTシェーブ構成を継承している。骨太でシンプル&クリーンな基本構成とワイドなコンソールを採用することで心地良い包み込まれ感とリッチな空間を演出した (Fig.8, 9)。



Fig.8 Interior Theme Sketch



Fig.9 Instrument Panel

#### 4.3 パーティカルアクセント

縦と横に立体的に交差するキャラクターがCX-9インテリアの特徴である。センターパネル、ドアトリム、シートに採用したパーティカルアクセントでCX-9インテリアデザインの個性を際立たせた。特にセンターパネルのサイドとドアトリムの縦のアクセントに加飾を採用することでCX-9独自の記号性を強調し、モダンなインテリア空間に仕上げた (Fig.10)。



Fig.10 Vertical Accent

#### 4.4 フローティンググリップドアトリム

ドアトリムはフローティングしたグリップを採用し、トリム空間を広く見せるとともにパーティカルアクセントのテーマを際立たせる効果を狙った。また、流れるようなカーブを描いたグラフィックと2トーンカラーにより、エレガントで上質なイメージを与えた (Fig.11)。

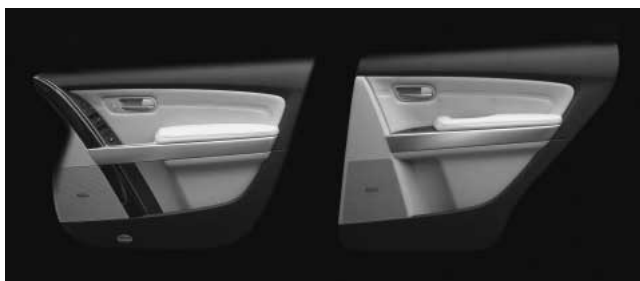


Fig.11 Door Trim

#### 4.5 インテリアディテールデザイン

メータゲージ、オーディオノブ、空調コントロールノブにはシリンダモチーフを採用。視認性と操作性の向上とともに個々の明快な機能表現を狙った。ATインジケータにはシルバーカラーとピアノブラックの加飾のコンビネーションを施し、MazdaのDNAであるワクワクするエキサイトメントと質感の高いデザインの両立を目指した (Fig.12)。

コンソールおよびドアトリムの手や肌が触れる部分にはソフトな素材ときめ細かいステッチを採用し、タッチ感の良さや質感の高いアピランスをデザインした。

メータゲージ、スポットライト、ドアトリムにブルー間接照明を採用し、夜間、室内全体を洗練された空間に見せると同時にストレージなどを優しく照らす配慮を行った。シリンダモチーフと立体感あるメータゲージはメタルの文字盤がブルーの間接照明で浮かび上がる新世代ブラックアウトメータを採用。オーディオコントロール部には操作に反応して点灯するアクションイルミネーションを採用し、エンタテインメント性とインターフェイス機能の進化を図った (Fig.13)。



Fig.12 Interior Details



Fig.13 Blue Indirect Illuminations

#### 4.6 アスレチック7シート

前述のとおり、CX-9は3列シートパッケージを持つが、ファミリー臭さを排除したアスレチックでスタイリッシュな空間を目指した。1stシートと2ndシートにはドット柄のレザーによるパーティカルアクセントを与え、縦の流れを強調した。2ndシートはボリューム感あるシート形状のほかにストレージとカップホルダを備えた幅の広いアームレストやリヤシート専用の空調コントロールを採用し、快適な居住空間を実現している。3rdシートは快適性を実現しながら室内全体に渡る上質でスポーティな空間づくりを追求した。3rdシートへのアクセスは2ndシートの操作性に優れたフォールディング機構と幅広いリヤドアの開口と相まって競合車を凌駕するアクセス性を実現した。ダイナミックなスタイリングからは想像できないCX-9のアドバンテージといえる (Fig.14)。

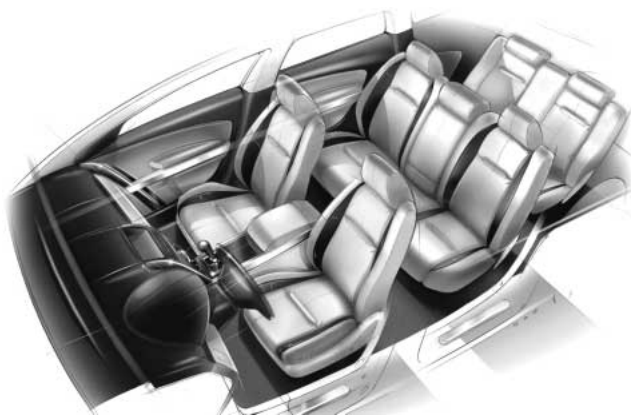


Fig.14 7 Seater Sketch

## 5. カラー & マテリアル

### 5.1 カラーデザインテーマ

カラーデザインテーマは“ Deep and Lustrous Rich ”。日本の伝統工芸である漆をイメージし、ボデーカラー、インテリアカラーともに深み感、光沢感、滑らかな質感表現を重視し、デザインした。

### 5.2 ボデーカラー

ボデーカラーは全8色を設定。CX-9の上質感を強調するためダーク系の色域を主体にシックなニュートラルカラー系、深みと艶のあるカラードブラック系、ブルーとレッドのキャラクタカラー系の3つのレンジで構成した。カリフォルニアの夕陽を美しく反射させる姿やロスアンジェルスやニューヨークの都会の光を映して表情を変えるリッチなボデーカラーをイメージした。深みと光沢感に加えクロームメッキモールディングが映えるStormy Blue MicaはCX-9の個性を強調するイメージカラーである (Fig.15)。



Cristal White Pearl Mica



Liquid Platinum Metallic



Brilliant Black Clearcoat



Galaxy Gray Mica



Black Cherry Mica



Sparkling Black Mica



Stormy Blue Mica



Copper Red Mica

Fig.15 Body Color Variation

### 5.3 インテリアカラー

インテリアカラーはサンドベージュを基調にブラックとのコンビネーションカラーのブラックで統一した2種を設定。サンドベージュは明るい色調に加えて、ブラックとのコントラストがあるエレガントなスポーティイメージを意図した。ブラックは全体の落ち着いた印象にシルバーカラーの加飾パーツのアクセントでノブールなスポーティイメージを狙った。パーティカルアクセントの加飾パネルにはレッドウッドとピアノブラックの2種を設定し、グレード展開を図った (Fig.16, 17)。





Fig.16 Sand Color Interior



Fig.17 Black Color Interior

## 6. おわりに

CX-9の開発をスタートして以降、他社も同じセグメントへ新商品を投入してきており、激戦が予想されるが、機能性とスタイリングを高いレベルで実現したCX-9はその競争力を発揮してカスタマーから絶対的な支持を受けることを確信している。私自身、いつかこのCX-9を駆って長年の思いであるルート66を走りながら北米大陸を横断してみたいと考えている。最後に、短期開発の中で、CX-9の商品化を実現できたのは関係者が一丸となり、終始高いモチベーションを発揮した成果である。この場をお借りして、関係者の努力に感謝したい。

著者



鈴木英樹